

「農業技術の匠」： ^{やまもと} ^{てるお} 山本 光男 さん（ 静岡県田方郡函南町 ）

～ 独自の仕立て法による柿の大果品種栽培と省力機械化体系の実現 ～



山本 光男さん

1 技術確立の背景(目的)

昭和 32 年に柿栽培を導入し、当地域の主流であった四つ溝柿（渋柿）は労力的な負荷がかかることから甘柿の生産を始めました。当時の一般的な柿栽培は、多収を目的に、樹は大きく、樹高は 5 m にも及び密植で作業効率が著しく低くなっていました。

そこで、風通しと日当たりを良くし、作業の効率化を図るため、植付け時から樹間の確保に努めるとともに、栽培管理・収穫作業の省力化のため、低樹高形に改良しました。

また、80 歳までできる農業を目指し、徹底した機械化を図っており、高齢者や女性でも安全で楽に作業ができる技術体系を確立しました。

2 技術概要(技術効果)

植付け時から樹間を十分確保することで、成園になっても十分日当たりが良く、風通しが良い園にするとともに、独自の仕立て法により、早期結実、低樹高化、風等による傷果の発生の軽減に努めています。

また、機械化できるところは徹底して機械化することで省力化を図り、その分、枝管理や着果管理を徹底し、高品質安定生産を実現しています。

さらに、大玉で県内でも栽培が珍しい品種を導入し、熟期の早晚による収穫労力の分散を行うとともに、高接ぎによる品種更新を行い、早期多収を目指しています。

これらの総合的な技術体系の確立により、平均 400～500g と大きく、秀品率 90% と高品質な柿の多収が実現しています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

山本さんは、平成 13 年から地域の希望者に、自分の栽培技術を伝授しようと、柿を中心にした様々な果樹、野菜等の栽培講習会を開催しています。剪定や接木の講習では、手作りのモデルを使ったわかりやすい整枝の仕方等の説明とともに、穂木を譲るなど県内外の生産者への技術の普及に努めています。

また、地域に遊休農地が増えている中、遊休農地を活用して、定年退職者やシルバーなどの人材による、柿やその他果樹等の特産化を目指しています。



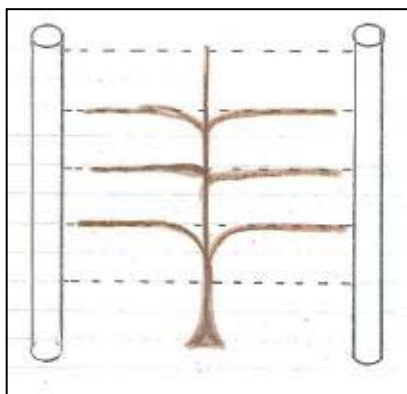
独自の仕立て法による園地風景

※最寄りの普及指導センター { 静岡県東部農林事務所
住所：静岡県沼津市高島本町 1 - 3
TEL：055-920-2157

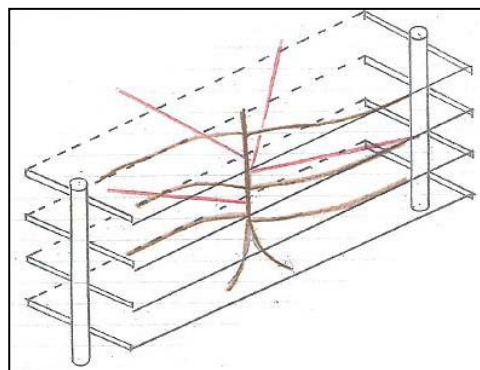
<技術のポイント>

独自の仕立て法による樹勢管理・低樹高化技術による大果生産

- ① 従来からの栽培方法で管理された柿の樹高は高く、これを低樹高にするには、思い切った切り下げが必要であるが、翌年、徒長枝が繁茂し、樹形が乱れる。発生した徒長枝は、全部切らず、樹勢をコントロールするため、数本を2～3年の間残しておく、その後には切除すれば、樹形が乱れず、低樹高化が可能となる。
- ② 大玉生産にこだわり、大玉品種を導入するとともに、徹底した着果管理を行う。1結果母枝当たりの着果量は、1～2果程度とすることで、大玉生産と翌年の着花（果）の確保が可能となる。
- ③ 独自の仕立て法により、樹勢をコントロール、着果の安定と、風などによる枝折れ、傷果等のリスクを軽減して、安定生産に努める。



独自の仕立て法（平面）



（赤枝は、縦位置への枝の配置により、空間利用）

独自の仕立て法（立面）

- ④ 品種更新は、高接ぎで行い、早期成木化を実現している。また、接木に使用する資材も家庭用のラップを使うことでコストの削減、活着率の向上を図っている。
- ⑤ 10a当たりの植栽本数は、18本（8m×8m）とし、樹を独立させる。従来の栽培方法では密植（3m×3m）が一般的だったが、樹間を広くとることで、日当たり、風通しを良くし、品質向上に繋げるとともに、スピードスプレーヤ、管理車などの機械を導入することで、省力化を図っている。



スピードスプレーヤによる園地の消毒



高所作業車による収穫作業